

教科名	数学科
-----	-----

現状分析（生徒の学習状況についての実態および定期考査等を含む学力調査の結果等を踏まえた内容別・観点別の分析表）

学習状況の実態	内容別・観点別結果の分析
<p>習熟度別少人数授業の学習形態をとっている。</p> <p>基礎クラスでは基礎的・基本的事項の定着を目指し、繰り返し学習が中心となる。教科書の「例題」や「問」の問題が自分で問題解決できることを目標にしている。定期考査では「知識・理解」や「技能」に関する問題では得点を取りやすいが、「数学的な見方・考え方」に関する問題に対しては十分に得点が取れていない。授業へ取り組む姿勢は良いが、既習事項の定着が不十分であり、基本的事項の習得の際、つまずくことが多い。また家庭での学習習慣は依然として十分とはいえないので、副教材やプリントで基本問題を中心にきめ細かい継続的な指導が必要となる。</p> <p>標準クラスや発展クラスでは、基礎的・基本的な知識・技能の定着と、それらを使って自分の考えを発表するなどの発展的な課題に取り組んでいる。定期考査では、基礎的・基本的な問題に対する得点率が高い。反面、応用問題への取組には差異が見られる。</p> <p>どのコースでも思考力・表現力を高めるために、授業では日常生活に結びつけることを心がけ、自分の考えをまとめ、発表し、それに対する自分の考えを述べたり、レポートの作成をしたりする工夫が考えられる。</p>	<p>中学3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」結果によると、主として知識の分野では平均正答率が67.9で全国の平均正答率64.4を3.5上回り、東京都の平均正答率66.3を1.6上回った。また主として活用の分野では、平均正答率が45.0で全国の平均正答率41.6を3.4上回り、都の平均正答率44.0を1.0上回った。カテゴリー別正答率で見ると全国の平均正答率を上回った主な内容は</p> <p style="padding-left: 2em;">平行移動した図形を書くことができる + 12.7</p> <p style="padding-left: 2em;">二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表せることを理解している + 11</p> <p style="padding-left: 2em;">多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している + 10.3</p> <p>カテゴリー別で全国の平均正答率を下回った主なものは</p> <p style="padding-left: 2em;">必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することができる - 5.9</p> <p style="padding-left: 2em;">与えられた式を用いて体積を求めることができる立体を理解している - 4.6</p> <p>正答数分布を分析すると主として知識分野では、36問中27問以上の平均を上回っており、主として活用分野では、15問中12問以上正解で平均を上回っている。一方で全体的にはやや2極化の傾向が見られる。</p>